

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	環境学習支援事業	会計	一般会計	事業No.	788	施策順No.	54-007
		事業種別	政策・重点	予算科目	10-5-4-11-2		
政策	5人の営みと自然・環境が調和したまちづくり			課等名	公民館		
施策	54 自然とのふれあいと環境学習の推進			事業期間	開始	18	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	市民						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		飯田市の人口(人)	107259	106630	105691	105036		
	意図	・様々な環境の問題について、より多くの人が関心を持ち、行動することにより、自らがライフスタイルを変えていけるようになる。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	多様な講座、催しへの延べ参加者数(人)	2897	4085	2390	2500	3533	2500	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	数値的には目標に掲げたところをクリアできているが、この成果指標が事業の意図するところを表しているか疑問もあり、後期計画の策定時に検討する必要がある。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	・全市民を対象とした身近な自然とのふれあいから地球環境問題までの幅広い環境をテーマにした講座等の実施。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 講座・教室など環境学習活動の実施(各公民館) 【橋北】北斗のまち・さわやか講座、【橋南】牛乳パックではがき作り、ラベンダー入り石鹸作り他、【羽場】探鳥会、早朝サイクリング講座他、【丸山】探鳥会、風越山と暮らしを考える会、【東野】山菜採り勉強会、【座光寺】ほたる観察会、水生生物観察会、【松尾】ラフティング体験会、【下久堅】ひさかた村塾講演会、環境学習会、【上久堅】環境学習会、【千代】千代峠交流会、千代ウォーキングマップ活用事業、【龍江】水辺の学校魚釣り・魚つかみ大会、【竜丘】親子ふれあいハイキング、【川路】里山保全学習事業、【山本】ハナノキ湿地観察ウォーキング、【伊賀良】森林講座、電動自転車PR他、【鼎】打ち水大作戦、【上郷】野底山の森林教室、【上村】野鳥観察会、【南信濃】環境学習会、夏休み子ども講座	講座等開催数 延べ参加者数	58講座 3,533人
23年度実施計画	1 講座・教室など環境学習活動の実施(各公民館) <主な計画> 環境講座・環境学習会【橋南・東野・下久堅・上久堅・山本・伊賀良・南信濃】 自然体験学習・北斗のまち・さわやか講座【橋北】、曙の里講座【羽場】、 飯田西中学校春の探鳥会【羽場・丸山合同】、風越山と暮らしを考える講座【丸山】、 麻績の里体験学校(ほたる観察会、水生生物観察会)【座光寺】 ラフティング体験教室【松尾】、千代峠交流会・千代ウォーキングマップを使った事業【千代】、 アレチウリ退治とラフティング、龍江ふるさと探検【龍江】、水辺の楽校【竜丘】、 里山保全学習事業ふるさとめぐり三徳【三徳】、地育力向上講座「ずんずんず〜ん隊」・ 鼎打ち水大作戦・地育力向上講座「ずんずんず〜ん隊」稲刈り体験【鼎】、 野底山の森林教室【上郷】、自然環境保護講座【上村】 など	講座等開催数 延べ参加者数	50講座 2,500人

3 事業コスト

事業費	特定財源 国庫支出金 県支出金 起債 その他	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
		一般財源	556	309	528	
	計(A)	556	309	528		
	正規職員所要時間			633		
	臨時職員等所要時間			224		
	人件費計(B)			2,504		
	トータルコスト A+B			2,813		

4 事業に対する市民や議会の意見

--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠、特殊要因)	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市民、事業者、学校が、市内の自然とのふれあいや環境学習を通して、環境意識が向上する。	施策の成果指標又はムトス指標	自然とのふれあいを持ったことがある市民の割合 環境学習会に参加したことがある市民の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのよう に貢献しましたか	4年間の振り返り	環境文化都市宣言を踏まえて公民館では、環境学習分野の事業を重点的に展開してきた。		
	後期に向けた課題	環境そのものの学習も大事だが、様々な公民館の事業の展開には環境的な側面が必ず付随するので、例えば会議室の節電など小さなことでも意識できるような仕掛けも考える必要がある。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてきましたか	4年間の振り返り	例えば各地区の広報紙の欄外へ環境に関する標語などを掲載するなど地域内への啓発等に工夫をしてきた。		
	後期に向けた課題	継続的に小さなことでも取り組んでいく必要があること。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてきましたか	4年間の振り返り	講師謝礼など必要最低限の事業費で取り組んできた。		
	後期に向けた課題	特になし。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	公民館として環境を考える機会を提供していくことは必要である。		
	後期に向けた課題	特になし。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてきましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	①学習の主体は市民(地域住民)であり、学ぶだけでなくアクションを起こしていく役割がある。 ②公民館は、市民の環境に対する意識を高め、省エネなど実践的な取組に結びつくような学習の機会を提供してきた。		
	後期に向けた課題	引き続き学習活動を展開し、市民(地域住民)の環境を保全していく意識を高めていくこと。		
全体を通じて	4年間の振り返り	「環境」を広義で捉えて多様な取組を展開してきた。		
	後期に向けた課題	市民(地域住民)の環境意識を醸成していくためには、学習するだけでなく実際の行動にどう結びつけていけるかが課題になる。予算的には細々目の分割により「54 自然とのふれあいと環境学習の推進」に位置づいているが、公民館ではこの事業も地域住民の学習と交流の一環として展開し、結果的に環境に対する意識が高まるとするものであり、「28 学習交流活動の推進」に位置づけるべきである。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ある	対象や意図を修正する必要はありますか	ある	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ある
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------